

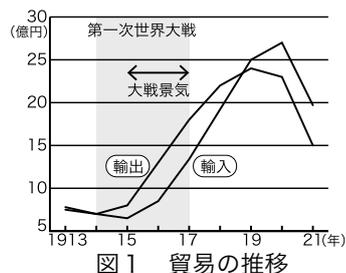
# 戦後恐慌から金融恐慌へ

第一次世界大戦の終結後、日本経済は空前の好景気から、慢性的な不況へと一変した。いわゆる戦後恐慌である。そして、1923年に関東大震災が発生すると、日本経済はいよいよ逼迫してきた。企業の経営内容も悪化し、銀行の倒産も相次いだ。このような暗い状況下、日本は昭和という新しい時代を迎えた。

## ○ 恐慌の時代

### ● 大戦景気からの恐慌

第一次世界大戦中の日本は、欧州諸国の抜けたアジア市場で大戦景気を迎えた。  
⇒大戦後、欧州諸国が復興を遂げてアジア市場に戻ると、日本は苦境に立たされた。



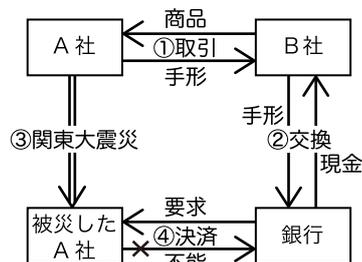
↓  
1919年以降、日本の貿易は<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ 超過に転じ、国産品の消費を圧迫された。  
⇒1920年、商品の売れ残りが会社の信用低下や株式市場の暴落に繋がり、綿糸・生糸の相場が半値以下になるほどの経済停滞<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が生じた。

### ● 再度の恐慌

<第2次山本権兵衛内閣 | 1923年9月～1924年1月>

1923年9月1日、大地震<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ が発生した。

↓  
多くの会社が被災したため、銀行は、手形の立替えを決済できなくなった。  
→震災の混乱・被害で決済が不可能になった手形<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ は多く、ほとんどの銀行が、日本銀行からの援助で一時しのぎを図る苦境に陥った。  
⇒このような震災による経済停滞を震災恐慌と呼ぶ。



◇手形…A社がB社に一定の金額の支払いを約束した証券のことで、  
ひとまずA社は銀行にB社への支払いを任せ、後日立替え分を決済

### ● 再々の恐慌

<第1次若槻礼次郎内閣 | 1926年1月～1927年4月>

加藤高明の病死後、憲政会の総裁を継いだ<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ が、内閣を組織した。



⇒同年、大正天皇の死去に伴い、昭和天皇が即位して、元号も昭和と改元された。

↓  
1927年、蔵相<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ が東京渡辺銀行の危うい経営状態を発言したことで、人々が預金の払戻しを焦る「取付け騒ぎ」が起こった。



⇒騒ぎで銀行の休業が続出し、経済停滞<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ が生じた。

↓  
<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ が経営破綻し、融資をしていた<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ が危機に陥った。

→(5)内閣は、(9)救済の緊急勅令を求めたが、**枢密院**で否決された。

⇒(5)内閣は、否決の責任をとって総辞職した。

◇鈴木商店…台湾で砂糖などの販売にあたった総合商社

◇緊急勅令…帝国議会の閉会中に必要となった勅令で、可否は枢密院で採決



## ●恐慌の收拾

<田中義一内閣 | 1927年4月～1929年7月>

1927年、<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ の総裁<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ が、内閣を組織した。



(11) 内閣は、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) を出して、

銀行に預金の払戻し停止を許し、その間紙幣を大量発行するなど銀行再開に備えた。

⇒対策は効果を上げ、金融恐慌はようやく鎮まった。



図6 田中義一

## ●日本経済の課題

大正から昭和初期、日本経済は次の2つの課題を抱えた。

①国際競争力の不足で輸入超過

→貿易は金(正貨)で決済されるため、国外へ金流出(金輸出)

⇒1917年からの金輸出禁止の継続必須

②中小の銀行・企業の合併が進行

⇒三菱・三井・住友・安田・第一の五大銀行が、支配的地位を確立

◇金輸出禁止…実施中の貿易は、為替相場となり、円安が進行

◇四大財閥…三菱・三井・住友・安田

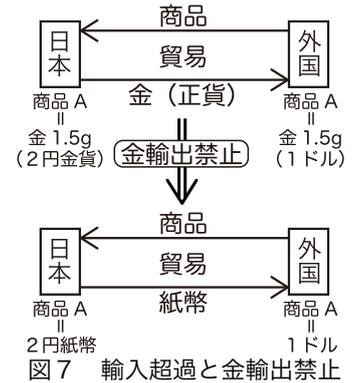


図7 輸入超過と金輸出禁止

## ○共産党の影

### ●無産政党の登場

1925年の<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ 公布後、普通選挙制による総選挙に備えて、

社会主義勢力の政党(無産政党)が結成され始めた。

→1925年、農民労働党が結成されたが、共産党との関係を理由に活動禁止となった。

⇒1926年、農民労働党の共産党系を除外して、<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ が結成された。



(14) 内で共産党系が増えると、(14) から次の2派が分裂・離脱した。

①社会民衆党…議会を重視し、また、国民全体の利益を追求する派閥

②日本労農党…(14) と社会民衆党の中間的立場をとる派閥

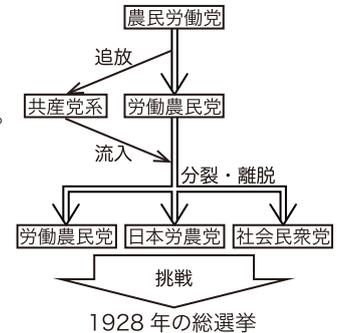


図8 無産政党の登場

### ●共産党への警戒

<田中義一内閣 | 1927年4月～1929年7月>

1928年の普通選挙制による初の総選挙で、無産政党8名が当選した。

→選挙に際して、<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ が労働農民党の背後で活動していた。

⇒田中義一内閣は、このことに危機感を抱き、次の4つをおこなった。

①1928年3月、<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_

…共産党員の一斉検挙し、関係団体の日本労働組合評議会を解散させた事件

②1928年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ 改正

…弾圧のため、最高刑を死刑とするように緊急勅令で改正

③1928年、道府県の警察にも<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) を設置

④1929年4月、四・一六事件

…(16) に続く共産党弾圧事件

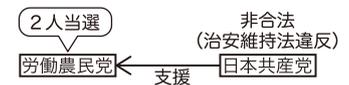


図9 日本共産党の活動



図10 三・一五事件